

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270202445
法人名	医療法人 愛健会 アイケン医院
事業所名	グループホームあいけん
所在地	長崎県佐世保市上本山町1092番地1 (電話) 0956-40-8522
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 1月17日

【情報提供票より】 (平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	2	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有( ) 円) ○無			
保証金の有無(入居一時金含む)	○有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	アイケン医院、東歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームの運営理念には、利用者の地域での生活を支援すること、質の高い専門的なサービス提供、家庭的な雰囲気での日常生活を支援することが掲げられ、全てに真剣に取り組んでいる。特に地域との関わり合いについては、地域のイベント等に参加するだけでなく、イベント等を企画したり、広報誌の配布を行うなど事業者側から積極的に地域に向けた働きかけを行っている。さらに、もうひとつの特徴として、同じ法人に医療機関、介護関連施設等があり、緊急時の医療対応、専門的なサービス提供体制が整っている。母体病院はリハビリに力を入れており、利用者の日課として取り入れられている。リハビリでは外来者との交流もあり、リハビリを通して、利用者が心身ともに健康であるように取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題について職員全員で話し合い、改善に向けた取組が行われている。運営理念の啓発については、広報誌の活用、金銭管理については、利用者の力量に応じた支援への取組が行われている。また、危険物等については保管場所等の改善が行われている。体験利用等の活用については、現時点では行われていないが、事前の見学、利用者の家族、主治医と充分相談した上で利用決定に至っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全ての職員の話し合いで作成されている。自己評価を通して日頃の業務を振り返る機会として理解し、積極的に取り組んでいる姿勢が見えた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、利用者の家族、市職員、他のグループホームの施設長が参加し、2ヶ月に一回の頻度で開催され、グループホームの近況、外部評価の結果の公表等が行われている。参加者から出された質問等について討議し、会議の内容の記録も作成されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用を開始する前に、家族等が意見、苦情等を表明する方法として、ご意見箱、苦情受付担当者への連絡、第三者委員による解決があることを利用開始時に説明している。家族の面会や家族会の際に、家族等の意見、苦情等を聴き出し、運営に活かすよう取組が行われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の文化祭への作品の出展、歩行ラリー等の地域のイベントや他のグループホームとの風船バレーボール大会への参加など、地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、地域の消防団、民生委員と連携し、地域に根ざした運営に取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から地域に根ざした運営に重点を置き、運営理念にも利用者の地域での生活を支援すると掲げられている。他に質の高い専門的なサービスの提供や、家庭的な雰囲気での日常支援も掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は運営理念を理解し、理念に基づいたサービスを提供するように努めている。地域行事に積極的に参加しており、また、家庭的な雰囲気でも過ごしてもらえるよう壁の飾り等を工夫したり、自宅の感じを聞き、それに合うように工夫している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭への出展、歩行ラリーへの参加など地域の行事への積極的な参加が見られる。また、同じ地域のグループホームと風船バレー大会を開催したり、グループホームに招いて踊りを披露してもらうなど地域との交流を深める取組が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日頃の業務を振り返る機会として理解し、全ての職員の話し合いで作成されている。外部評価の結果について各ユニットの職員全員で改善に向けた取組が実施されている。		

グループホームあいけん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者の家族、市職員、他のグループホームの施設長が参加し、2～3ヶ月に一回の頻度で開催され、グループホームの近況、外部評価の結果の公表等が行われている。参加者から出された質問等について討議し、会議の内容の記録も作成されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会に所属し、運営推進会議以外にも市の担当者と接する機会があり、交流を図っている。また、市主催の介護教室の受託も行われている。広報誌を支所や交番に配り、グループホームへの理解を深めてもらうよう努力している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に訪れた際に、利用者のホームでの生活ぶりを、写真を交えながら伝えている。その際に金銭管理の報告も行われている。面会に来られない家族には、利用者の近況を写真入りの手紙で伝えたり、電話で連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始時に、苦情等を表出する方法として、ご意見箱、苦情受付担当者、第三者委員による解決があることを伝えている。また、家族会や面会時にも家族等から意見を聴取するように努めている。家族会を開催しているが、現在のところ家族等からの意見が出されていない状況である。	○	特に意見が出なかったという状況でとどめておらずに、家族の心境を考えて、意見等を汲み取る取組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、退職に伴い、利用者には悪い影響が出たことは現在のところない。新しい職員に利用者の性格、生活歴等を把握させ、利用者の生活に支障を来すことがないよう配慮している。		

グループホームあいけん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を作成し、職員に積極的に研修を受講するように働きかけている。受講した内容はカンファレンス等で報告され、共有が図られている。しかし、外部研修は業務時間内ではなく、職員が休日を利用して受講していることが多い。	○	研修を受講することで、サービスの質の向上、職員のレベルアップにつながることから、シフトの調整や内部研修の充実など、ホームとしての更なる取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、同じ地区のグループホームの運営推進者会議に参加し、同業者との交流を通して他のホームの良いところを取り入れるなどサービスの質の向上に取り組んでいる。また、同じ地区のグループホームと風船バレー大会を開催し、利用者同士の交流、職員同士の交流も行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人、家族に見学に来てもらっている。利用に当たっては、本人、家族、主治医と十分な相談の上、決定がなされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から漬け物の漬け方や、折り紙の折り方を教えてもらい、教えてもらったら感謝の言葉を伝え、ともに支えあう関係を築くことができるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はアセスメントや家族等から聞き出した利用者の情報等を参考にしたり、利用者の話をよく聞くことにより、利用者の思い、意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望、意見を取り入れ、介護計画が作成されている。作成された介護計画書は家族等に説明し、納得してもらった後、利用者、家族の署名、押印をもらっており、控えとしてコピーを渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月に1回見直しが行われている。短期目標については一日に朝と夕方の2回職員が○×式の評価を行い、状態に変化が生じた場合は随時見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族が都合で病院受診に同行できない時は代わりに同行したり、買い物に付き添ったり、その時の状況に応じて柔軟な対応がなされている。		

グループホームあいけん


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院をかかりつけ医とする利用者がほとんどであるが、それ以外でも利用者が希望するかかりつけ医があれば受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族等の要望があれば、母体病院と連携しながら、グループホームで看取りまで対応する方針を契約時に伝えている。利用者の状況の変化を見ながら、医師や家族等と相談し対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者と会話する時は、年長者に対する尊敬の気持ちを持って接するように心がけている。また、広報誌への利用者の写真は、利用者家族の許可が得られたもののみ掲載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝等の大まかな時間は決まっているが、自由な時間はレクリエーションを行ったり、自室で過ごしたり、利用者が思い思いに過ごせるよう支援している。しかし、レクリエーションについては、事業者側から提供されたものが多い。	○	レクリエーションは事業者から提供されたものが目立つため、利用者個々の希望に応じたレクリエーション等を提供する取り組みを期待する。

グループホームあいけん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた新鮮な材料を使用した食事が提供されている。アセスメントで利用者の食べ物の好き嫌いを把握し、利用者がおいしく食べられるよう支援している。職員も同じものを一緒に食べ、利用者の食事のサポートをしている。食事の準備、あとかたづけは利用者の力量に応じて手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する順番の希望が重なった場合は、順番を交代するようにし、全ての利用者が納得できるようにしている。女性の利用者には、同性の職員が入浴介助するよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント表や利用者の家族等から聞き出した情報をもとに、利用者の趣味、得意だったものを把握し、利用者がホーム内ですすんで取り組めるような物品等を用意している。また、利用者の誕生日パーティを開催し、プレゼントを用意するなどホーム内での日常生活の中にも楽しみ事を設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行が困難な利用者も車椅子を利用して、近所のスーパーへの買い物、散歩等への外出支援が行われている。また、母体病院のリハビリに出かけ、外来者との交流を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はドアに鍵はかけずに、ドアに鈴を付け、鈴の音でドアの開閉を察知する工夫をしている。		

グループホームあいけん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防署の協力のもとに行っている。また、地域の消防団を共同で訓練を行い、緊急時には協力が得られるよう働きかけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が栄養バランスを考慮し、一日1,600キロカロリーになるようなカロリー計算を行った献立を作っている。利用者の食事は、体温等とともに記録されており、また、水分摂取量も大まかではあるが把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的で、季節の草花や観葉植物が飾られ、不快な音や光もなく、居心地良く過ごすことができる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて過ごすことができるように、居室には、使い慣れた家具、テレビ等が持ち込まれ、また、利用者が作った手芸小物、思い出の品、家族の写真が飾られている。		

※  は、重点項目。